

日本医史学雑誌 第四十九卷 第二号 目次

原 著

多紀元簡失脚の背景——医学館官立化当初の事情……………町泉寿郎・小曾戸洋・花輪壽彦……………二〇五

日本植民地時代における韓国のハンセン病対策の研究——一つの試論……………魯 紅梅……………三三三

近代日本におけるマッサージ医療の導入……………和久田哲司……………二六三

精神疾患患者・遺伝性疾患患者に対するナチスの「安楽死」作戦と
 ミュンスター司教フォン・ガーレン……………泉 彪之助……………二七七

研究ノート

解体新書——言語と概念の変容……………岡田 昌信……………三二二

ひろば

昭和二〇年四月歯科医師への医師免許特例措置……………小関 恒雄……………三五五

病原体としての「風」の概念……………山田 慶兒……………三五三

資 料

癸亥 春林軒続薬方冊（四）……………高橋 均・坂田育弘・児玉重隆……………三五五

追 悼

富士川英郎先生を悼む……………大滝 紀雄……………三六九

記 事

例会記録

例会抄録

江戸医学館における臨床記録……………町泉寿郎・戸出一郎……………三七三

横浜港瀧卒養生之規則について……………中西 淳朗……………三七五

和漢薬の来歴に関する新史料……………小曾戸 洋……………三七七

医学館年表作成をめざして——基礎資料解説……………町 泉寿郎……………三七九

断種法史上の人びと(その六)——成田勝郎・付菊地甚一
 江戸幕府寄合医師 添田玄春の医学と医療活動

書籍紹介

鈴木七美 『癒しの歴史人類学』

小高 健 編 『長興又郎日記』

石塚久郎・鈴木晃仁 編 『身体医文化論』

岡田靖雄 『日本精神科医療史』

新村 拓 『痴呆老人の歴史』

会田秀介 『医と石仏・庶民の治療信仰』

深瀬泰旦 『天然痘根絶史』

日本精神衛生会 編 『図説 日本の精神保健運動の歩み』

文庫めぐり

温知堂文庫

千葉大学附属図書館亥鼻分館

《本号の表紙絵》

「病人の脈をとる医者」

長崎大学附属図書館には「幕末・明治期日本古写真コレクション」が所蔵されている。当コレクションは幕末から明治期にかけての外国人居留地や観光地を中心に、北海道から九州まで各地の風景・生活・風俗を写したもの。計5400点をこえ、多くは彩色されている。その全てがインターネット公開されており、写真タイトルや解説文から検索できる。「医者」で検索すると脈診を行う漢方医ないし針灸医の写真が4点、歯医者が1点あり、うち3点は明治5年に北海道開拓使にも雇用された写真師・スチルフリードの撮影だった。当時の外国人には脈診が奇異だったのだろう。

表紙絵の写真(整理番号:50-2-0)は撮影者・場所・年代とも未詳とされるが、脈診をしているので外国人の撮影だろうか。中央の医者は僧形で、風呂敷に包んだ往診用薬味箆筒らしきものが手前にあり、漢方医と思われる。その前には刀が置かれ、帯刀禁止令が明治9年の公布につき、これ以前の撮影だろう。右側の若い娘が七輪で火をおこしているのは、処方された薬を煎じるためか。左側の苦しそうな患者は鉢巻をしており、当時の様子を如実に伝える貴重な写真といえる。(真柳 誠)

| | |
|-------|----|
| 真柳 誠 | 三三 |
| 樋口誠太郎 | 三三 |
| 岡田 靖雄 | 三六 |
| 松木 明知 | 三五 |
| 奥沢 康正 | 三五 |
| 寺畑 喜朔 | 三三 |
| 橋本 明 | 三〇 |
| 月澤美代子 | 三九 |
| 瀧澤 利行 | 三七 |
| 瀧澤 利行 | 三六 |
| 深瀬 泰旦 | 三四 |
| 岡田 靖雄 | 三一 |